北県央サイクルツーリズム・プロジェクト

北県央プロジェクト実行委員会

はじめに

新潟県の中心部にある県央地域は、長岡と新潟の中間地点に位置する。上越新幹線燕三条駅を中心に燕市・三条市から、弥彦村へはインバウンドも含めた観光客も少なくないが、当プロジェクトメンバーの地域は燕三条駅から車で30~50分ほどに位置し(ここでは北県央地域と呼ぶ)、核となる観光施設に乏しいのが現実である。

しかしながら、この地域には日帰り温泉の『いい 湯らてい(三条市)』『美人の湯(加茂市)』道 の駅『漢学の里しただ(三条市)』『庭園の郷 保内(三条市)』『たがみ(田上町)』、『加茂 土産物センター(加茂市)』と6つの公共施設が あり、それぞれ指定管理者が運営している。当プ ロジェクトは、それぞれの指定管理者の代表が現 場の知見を持ち合わせ、これまで点で存在してい たところを面で展開することにより、この地域の 観光産業の活性化を目指し、関係・交流人口の促 進に寄与したいと考えている。

1、研究事業の背景と目的

プロジェクトメンバーの一員である「道の駅」庭園の郷保内と新潟経営大学は、5年間に渡り保内地域を中心とした着地型観光及びインバウンド観光の可能性を探る研究活動を行なってきた。2021年の事業では、範囲を保内から加茂市に広げ研究活動を行い、加茂市〜保内地域を結ぶまちあるきコース、サイクリングコースを作り12種類のコースマップを完成させた。

田上町~加茂市~三条市の保内地域~下田地域 (本事業では北県央地域と呼ぶ)には、3つの道 の駅と加茂土産物センター、日帰り温泉が2つあ り、6つの施設が30km程度の距離の中で点在して いる。越後平野や粟ケ岳、棚田や里山などの四季 を通じた景色、その自然から生み出されるグル メ、諸橋轍次や写真家 牛腸茂雄といったカルチャー、八十里越えや古墳といった歴史、伝統工芸 や庭園文化、越後の小京都、温泉、アウトドアメーカーやキャンプ場といった魅力的なコンテンツが集約しており、この地域内の施設全体での年間 来館者数は100万人を超える。それぞれがゲートウェイ機能を設けることで地域全体の活性化が期 待できると考えている。

本年度はこれまでの大学を核とした研究事業から 一歩進み、地域内の公共施設をハブとした現実的 な事業として、より持続可能性の高いものとして いくためのものである。

これまでの研究成果を活かしてサイクルツーリズムをキーワードに、地域内の公共施設を交流拠点とし、アフターコロナを見据えてインバウンドも含めた観光交流人口の増加、さらには移住定住促進に繋がる事業とすることを目的とする。

2、調査・実施内容

2.1 実地研究

2.1.1 研究テーマの絞り込み

プロジェクトメンバーで、4月にミーティングを 行い、課題の整理を行った。

- ① インバウンド観光に関しての知識不足
- ② リソース (コンテンツ) の最適化
- ③ 大学との連携の成果が出ていない という3つの課題に集約された。

この地域では交流人口の季節波動が大きく、観光 関連産業の安定経営に結びつかないことはこれま での研究からも出された課題である。サイクルツ ーリズムをキーワードとして、上記の課題に対し ての解決策を探るべく研究を行うこととした。

2.1.2 勉強会

①の観光産業に対する知識不足という課題を解決 するため、勉強会を開催した。

インバウンド観光勉強会

インバウンドに関しての研修会を行った。

オンライン形式で、ワークショップを交えながら インバウンド観光の基礎と活用方法について研究

を行った。人口減少で、人口減少で、減交で、減をした。とは購買品をはませた。



減るということ。そのための施策としてインバウンド対応が欠かせないということであった。全国でもインバウンド対応ができている自治体、観光地は少なく、まだまだブルーオーシャンであるということであった。それを踏まえてこのプロジェクトの中心に位置する加茂市を事例にワークショ

加茂市の SWOT 分析

A - 40	-	~~~	ルと市場機会	THIR / LEC -			外部要因	-	
				(株現分で) 9,676	in A	(Opportu		_	脅威(Threats)
ΛΠ		25,449	世帯数			(- p p		-	
		675億	事業所数			雪深い所あ		空家	出生率の低下 新幹線・高速IC
農業生	庄草	24.5億	農家戸数	969	高齢化	冬遊びがで	きる	Al	賃金安い から遠い
商品版	灭壳部	333億	宿泊者数	11,796	リモートワーク	農業への関	心高まる	コロナウィ	「ルス 商店街の後継者難
面積	133	.7kml	商店数	388	クルマ社会			5 G適用外	歌書·熊猪 財政難 IT技術進化
従業者	飲	9,676	入込客数	228,829	アウトドア化	ほんもの	野外レジャー	木材不足	地球温暖化
高齡	化率	37.4%	温浴施設	1	訪日客拡大	郷土料理	ワーケーション	新型コロナ	少子高齢化
П	加	電車止る	雁木商店街	寺社多い	SO戦略 (+F9:N2	20積極的項	文勢):maxi-maxi	ST樹	略(差別化戦略):maxi-mini
		伝統工芸品	祭り多い	農商住区分け	ハイキングコース制作、	公開	農業6次化推進	加茂駅から	- 一貫性ができるように思われる
	の	駅から5分1	¢Ш	宝、季節感	里山とまち歩きを組み合	せツア企画	トレイルラン	加茂駅前の	商店街CIを開発し、PRする
	強 み S t	自然多い	四季と自然	散策行程多い	道の駅をつくる 水源地	ーダムを使	ったアウトドアイベント		
		T	温泉	加茂川中心と	雪まつり冬鳥越え 高	齢化による	健康志向スマート	市内の交通	例の利便性を高める
		アカリバ	町中清流	した市街地	キャンプ場経営する	ウエルネス	推進とまち歩き		
		SNS映え	SNS映え コンパクト市		維持費の少ない施設開発		鉄道利用の集客		
内		小京都	田園		里山とまちをコンパクト	活用	散策コース制作開発		
部	r	大学ある町	地域区分明	確	七谷温泉と水源地を組合	せ商品	河と河川敷活用開発		
要		変化嫌う	産業高齢化	WiFiない	WO戦略(段	階的施策) :mini-maxi	WT戦略	・ ・ ・ 撤退):mini-min
- 1	bО	発信力弱い 空地なし 駅近くに寄 人口分母少ない る店少なし 意識の低下 駐車場不足 長居場所なし			田畑を貸し出	はす		農泊体験を	する (空家活用から定住まで)
	茂				高齢者対象			クルマをな	くし空気をよくする
	Ø				ネット教室				
	35	産業縮小	事業化意識	低い	WiFiがつなか	パる場所づく	(1)	I	
	4	学校数に対	し 雪多い	娯楽がない	コロナ後も利	川用可能な場	易所づくり	I	
	w	若者場所少ない 宿泊施設少ない			働く場所を創る			l	
	е	電車少ない	遊ぶ場所な	L				l	
	-			資源活用少				l	
_		12.74		partners // /					

ップを行い、SWOT分析で課題と強みを明確にした。強みは景色や商店街という結果となった。弱みは宿泊施設がない、発信力が弱いなどといった声が上がった。

コンテンツの重要性

勉強会の中で、サイクルツーリズムについても触れることができた。初心者~中級者向けにはコンテンツの充実も必要不可欠ということであった。滞在満足度の向上や高付加価値化につながる観光商品を造成する必要がある。昨年度作成した12のツアーコースを満足度の高いコンテンツにするためには、コースで見ることができる景色や体験できる事柄を具体的に示す必要がある。そのために、ツアーコース上の写真撮影を行うこととした。

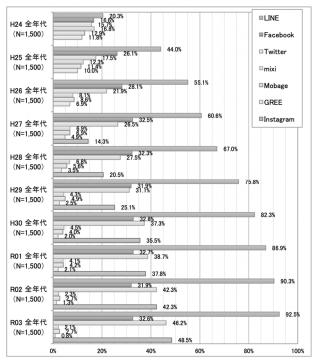
広報活動の必要性

プロジェクト会議の中で、個々のSNSは存在するが、全体が纏まってのメディアがないので、まずはSNSやHPで全体をひとつに纏め、発信することが必要という意見があった。しかしながら、現代ではSNSも多数の媒体が存在する。それぞれがどのような役割で、どの媒体がふさわしいか研究することとした。

研修会を通して、SNS利用は、LINEの利用率が全年代で92%とダントツで高く、第2位がインスタグラムで48.5%となっている。しかしながら、LINEは個々の相互コミュニケーションツールとして使う人がほとんどで、SNSとしての拡散力には欠ける面がある。プッシュ型の広報ツールとなるため、直接的な広報力は期待できるものの、広告料と同じように費用がかかってくるという課題があった。結果、このプロジェクトにとって広報ツールはインスタグラムで行うのがベストという結果であった。

クラウドファウンディングの可能性

研修会では、クラウドファウンディングについて も研究材料とした。自治体がバラバラ、かつそれ ぞれが別団体に所属している実行委員会組織のた め、資金については常に課題に上がる。クラウド 主なソーシャルメディア系サービス/アプリの利用率 J



な反面、広報活動ツールとしても利用できるとい うことがわかった。

2.1.3 大学との協業

新潟経営大学の協力で、着地型観光について勉強 会を行った。

コロナ禍の観光まちづくり

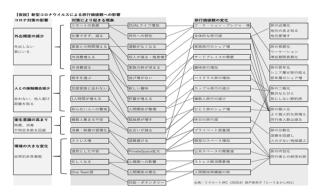
新型コロナウイルスは、観光に大きなインパクトを与えた。人々の観光に対する意識が変わり、旅行需要は分散化の傾向が見られる。これは施設運営者にとっては大変ありがたいことで、忙しい日が集中するよりも運営がやりやすい。

1. 旅行者の意識変化 月別旅行者数の変化、旅行需要分散平準化 春休み・GW・盆休み需要が崩れる



出典:国土交通省観光庁(2022)『令和4年度観光白書第2章』2-29

また、旅行に求める価値観も大きく変化があり、 旅が個人旅行・分散化の傾向が強く、目的もワー ケーションやサイクルツーリズム、ランニングな どに変化している傾向がある。



また、新潟県内8つの地域で行ったアンケート調査の結果を持ってクロスSWOT分析を行い、以下のような結果

を得た。コロナ縮小期 においては 32ポイント とダントツ

	外部環境							
	機会 (0)	のリスト	脅威(T)のリスト					
	コロナ៖	宿小期	コロナ拡大期					
	屋外レジャー	32件	屋外レジャー	9件				
	地域文化事業	15件	地域文化事業	8件				
強み (S)	農業産業体験	7件	農業産業体験	6件				
リスト	空家事業	7件	空家・交通網	各4件				
3	S0戦略 (積極攻	勢) maxi-maxi	ST戦略(差別化制	改略)maxi-mini				
1	地域文化事業	13件	地域文化事業	4件				
1	交通網・空家	各6件	屋外レジャー	1件				
弱み(W) リスト	屋外レジャー	5件	農業産業体験	1件				
771	農業産業体験	3件	空家・交通網	各1件				

で屋外レジャーが強みとなった。

この結果より、コロナ縮小期に差し掛かっている 今のタイミングでは、屋外レジャー=サイクルツ ーリズムに力を入れることは有効であるという結 論を得た。

コンテンツ製作

新潟大学の学生と共に、フィールドワークを行った。サイクルツーリズムのコンテンツの一つとして、越後平野の田園地帯のコース、農業体験のコースは重要コンテンツということで、学生と共に農家への聞き取り調査を行った。

4件の農家さんを訪ね、全ての農家さんが外国人を含む観光客の受け入れに対して積極的であるという回答を



得ることができた。

体験した参加学生へのアンケートでは、観光コンテンツとして農業体験は有効であるかという問いに対して7名中7名が有効であると回答した。その理由は非日常の体験であること、生産者の想いを感じ取れること、などという回答があった。

写真撮影

コンテンツ製作と広報活動の促進のため、写真撮影を行った。大学生の意見も取り入れ、魅力的に、今年度といけれた意識した。写真となるとなるとなった。ないカーツーである。は、エリーのは、であり、でも自然を感じるという。



ルレクチェの成長

れるという点が高評価であった。それを受けて、 北県央地域の四季を感じ取れるような写真撮影を 意識して行った。

2.2 視察の実施

サイクルツーリズムをキーワードとした着地型観 光の取り組みの実現のために、先進地視察を行っ た。

視察場所の選定

千葉県の房総半島は、都心からも近くサイクリストが多く集まる場所となっている。中でもアクアラインの出口となっている木更津市からは、道の駅やアウトレットパーク、アーティストが手がけた農業振興施設を有し、さらに隣の鴨川市にかけて大きな直売所があり、南に行くといくつかの道の駅があり、北県央地域の立地条件と似通っている。そのため、視察地を千葉県房総半島とした。

商業施設の視察(点を訪ねて)

アクアラインを渡り、 アーティストの手掛け る『クルックフィール ズ』を訪ねた。こちら はサイクリング大会の 際の立ち寄り場所にも



なっている。施設は全体が広く、農と食、アート と自然。をコンセプトに広大な敷地で自然を感 じ、宿泊もできる施設となっていた。

鋸南市にある「道の駅」保田小学校は、廃校を活用した道の駅であり、メディアで拝見することも多い。廃校というドラマチックなコンセプトで、目的地とするに十分なコンテンツとなっていた。鴨川市にある『みんなみの里』は無印良品が手掛ける直売所で賑わっていた。軽食もあり、サイクリストが寄るにはちょうど良い場所であった。

「道の駅」木更津うまくたの里は、大手土産会社

が運営を行なっており、 旅のラストでお土産を購 入するのにふさわしい道 の駅である。

このルートで約50km、自 転車で2時間半のコースと なった。

いい湯らてい~美人の湯 ~BBC~道の駅たがみ~道



の駅庭園の郷保内~道の駅漢学の里しただ、と繋 ぐルートとほぼ距離は変わらなかった。

点を面にするために

視察メンバーで振り返りを行い、北県央地域と今 回の視察地の違いは ①宿泊施設の有無 ②各施設 のコンテンツの確立という結論に至った。

宿泊施設が無いという点は、かねてより北県央地域の大きな課題として指摘されてきた。三条市下田地域、加茂市には空き家をリノベーションした一棟貸しのゲストハウスがあり、田上町には湯田上温泉があるが、その中間層の気軽に宿泊できる

ホテルやゲストハウスの設置が求められる。

各施設のコンテンツについては、それぞれの個性が際立っており回っていてもワクワクするような施設ばかりだった。点を磨き、大きくしていく作業を各施設ごとで努力していく必要があると感じた。

商業施設の重要性

昨年度のアンケート調査の最終項目に「ツアー最終地点での買い物希望品目」について質問した。 学生では全品目の82%が、50歳以上の参加者では86%が訪問地の産品の購入に意欲的であることがわかった。地域ブランド性の強い品目は、それだけ地域消費に強く貢献する可能性があることがわかる。今回の視察で、このアンケート結果を実感することができた。

3、まとめと今後の展望

3.1.1 研究成果

北県央地域の観光資源をサイクルツーリズムというキーワードで広域連携にて造成・開発・発信していくことを念頭に活動を行った。

自治体を跨ぐことで縦割りになりがちなところを 一体として見せるためには SNS、とりわけインス タグラムの活用が効果的ということがわかった。 観光資源を分類して、資源をテーマごとに関連づ けて結びつけたツアールートを作成し、深掘り し、戦略を持った商品作成が必要である。合わせ て、東京駅から 2 時間で到達できる燕三条をゲー トウェイとして、域内の経済循環を生むために、 より一層各施設の活性化が求められる。

広域連携

当研究は、自治体を超えた広域連携を促すことも 目的のひとつとして進めてきた。指定管理施設は 自治体が設置者であるため、地域外の事業を良し としない場合も多く見受けられる。本年の活動で は、三条市、加茂市、田上町からも多大なご協力 を得ることができた。また新潟経営大学、新潟大 学のご協力でより広い視点で地域を俯瞰すること ができたと感じている。自治体の枠を超えてこの ような形で連携することにより。当該地域のイン バウンド観光発展の一助になることを期待した い。

3.1.2 課題

三条市、加茂市、田上町では、それぞれまちづくりを手掛ける団体の活動が増えてきている。そこに大学生が参画し、良い化学反応も起こっている。しかしながら、まだまだ小規模な地域での活動に止まっており、北県央全体を俯瞰して活動できる団体がない。そのため、リーダーシップを持って牽引していく組織づくりが直近の課題である。

3.1.3 今後の活動

これまで5年間に渡り、新潟経営大学は道の駅庭園の郷保内及び保内緑の里管理組合との協力で研究活動をおこなってきた。それを引き継ぐ形で、今年度は北県央地域全体のブランディングについての研究となったと考えている。新型コロナウイルス感染症も収束に向かっており、昨年までの成果物を継承し、いよいよ研究から実働へと転換していく時期になったと感じている。

奥会津*北県央の交流促進

これまで八十里越え関連のイベントは、只見町幸三条市での交流に止まってきた。開通が近づきにわかに奥会津幸北県央での自治体を超えた交流の必要性の声が上がっている。その中心になっているのは奥会津「道の駅」ネットワークで、6町村の道の駅からなるグループである。道の駅交流をフックに、奥会津と北県央とで交流し、イベントや提携商品の製作などで交流を促進していく。

3.2 289号線(八十里越え)との関係性

新潟県は新潟県三条市と福島県只見町を繋ぐ28 9号線(通称八十里越え)を建設中である。この 道路の開通により、新たな関係交流人口の増加が 期待されるが、アンケート調査によると福島側の 方々が開通したら行きたいところの上位はイオン 新潟南、海、という結果が出ている。このままで は、北県央地域はただの通過点になってしまうこ とが十分に予測される。新289号線に頼らず地 域全体が広く県内、国内、海外からも目指される 場所となることで、289号線の開通により新潟 県、ひいては北陸全体の活性化に寄与するものと 考える。